



第60期定時株主総会招集ご通知に際しての 法令及び定款に基づくインターネット開示事項

1. 連結計算書類

「連結株主資本等変動計算書」 …… 1ページ

「連結注記表」 …… 2～7ページ

2. 計算書類

「株主資本等変動計算書」 …… 8ページ

「個別注記表」 …… 9～12ページ

上記事項につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、当社ウェブサイト
(<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>)に掲載することにより株主の皆様
へご提供しております。

ローム株式会社

連 結 株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

〔 平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで 〕

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	86,969	102,403	604,057	△ 47,777	745,653	25,438	△ 40,942	△ 5,163	△ 20,667	466	725,452
当期変動額											
剰余金の配当			△ 21,154		△ 21,154						△ 21,154
親会社株主に帰属する 当期純利益			37,249		37,249						37,249
自己株式の取得				△ 10	△ 10						△ 10
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						8,493	275	1,586	10,355	△ 14	10,341
当期変動額合計	-	-	16,094	△ 10	16,083	8,493	275	1,586	10,355	△ 14	26,425
当期末残高	86,969	102,403	620,151	△ 47,788	761,736	33,931	△ 40,666	△ 3,576	△ 10,311	452	751,877

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連 結 注 記 表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 45 社

(2) 主要な連結子会社の名称

ローム浜松株式会社

ローム・アボロ株式会社

ラビ・セミコンダクタ株式会社

ローム・エレクトロニクス・フィリピンズ・インク

ローム・インテグレイテッド・システムズ・タイランド・カンパニー・リミテッド

ローム・セミコンダクタ・チャイナ・カンパニー・リミテッド

ローム・エレクトロニクス・タイランド・カンパニー・リミテッド

ローム・セミコンダクタ・ホンコン・カンパニー・リミテッド

ローム・ユーエスエー・インク

ローム・エレクトロニクス・アジア・プライベート・リミテッド

なお、当連結会計年度（平成 30 年 3 月期）における連結子会社の増加は次のとおりであります。

ローム・セミコンダクタ・ベトナム・カンパニー・リミテッド（平成 30 年 3 月 23 日付で新規設立）

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数 0 社

(2) 持分法を適用した関連会社数 0 社

(3) 持分法を適用しない主要な関連会社の名称等

（関連会社）

ルーセン・カンパニー・リミテッド

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の適用から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

決算日が連結決算日（3 月 31 日）と異なる連結子会社は 8 社であり、その決算日はいずれも 12 月 31 日であります。

これらの連結子会社は、連結決算日で仮決算を実施し、仮決算に基づく財務諸表を基礎として連結計算書類を作成しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券のうち時価のあるものは連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものは主として移動平均法による原価法によっております。

② デリバティブ

時価法を採用しております。

③ たな卸資産

商品、製品、仕掛品及び原材料は主として移動平均法による原価法、貯蔵品は主として最終仕入原価法によっております（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）。

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法によっております。ただし、当社及び国内連結子会社において平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）につきましては、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、建物及び構築物が3～50年、機械装置及び運搬具が2～10年であります。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権につきましては貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権につきましては個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、海外連結子会社等の資産及び負債は、当該子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(5)のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で均等償却しております。

(6)その他連結計算書類の作成のための重要な事項

①退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る資産および負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づいて計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10～13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10～13年）による定額法により按分した額を、費用処理しております。

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

②消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

674,177 百万円

2. 有形固定資産の圧縮記帳累計額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳累計額は、火災等による保険金入金によるもの 474 百万円、国庫補助金等の受入によるもの等 1,168 百万円であります。

なお、取得価額から控除している有形固定資産の内訳は、次のとおりであります。

建物及び構築物	729 百万円
機械装置及び運搬具	529
工具、器具及び備品	7
土地	377

3. 保証債務

従業員の銀行借入金について債務保証を行っております。

従業員（住宅資金借入金） 47 百万円

4. 非連結子会社及び関連会社に対する資産

投資有価証券（株式） 680 百万円

連結損益計算書に関する注記

1. 減損損失

当連結会計年度（平成 30 年 3 月期）において、当グループは次の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用 途	場 所	種 類	金 額（百万円）
事 業 用 資 産	アイルランド	無形固定資産（のれん除く）	1,757
		機械装置及び運搬具等	40
そ の 他		のれん	4,898
遊 休 資 産	日 本 等	機械装置及び運搬具等	327
		建設仮勘定	22
合 計			7,046

当グループは、減損損失を把握するにあたり、事業用資産については、継続的に収支の管理を行っている管理会計上の事業区分に基づきグルーピングを行い、遊休資産については、個々の物件ごとにグルーピングを行っております。

（事業用資産及びその他）

事業買収時に想定していたとおりの収益が見込めなくなったことから、帳簿価額を再評価し、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、第三者による評価結果に基づき算定しております。

（遊休資産）

現時点において今後の使用見込みが乏しいと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、市場価値を勘案した合理的な見積りにより算定しております。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式 111,200,000 株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	8,462 百万円	80.00 円	平成29年3月31日	平成29年6月30日
平成29年11月1日 取締役会	普通株式	12,692 百万円	120.00 円	平成29年9月30日	平成29年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	12,692 百万円	利益剰余金	120.00 円	平成30年3月31日	平成30年6月29日

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当グループでは、余資は主として安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は、営業債権の為替変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当グループの社内規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部は先物為替予約を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券である株式並びに債券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。債券は取締役会の承認を受けた社内方針に従い、格付の高い債券を対象としているため、信用リスクは僅少であります。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務並びに未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。これらの営業債務は流動性リスクに晒されておりますが、当グループでは、適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は、取締役会の承認を受けた社内方針に従って行っており、実施状況を半年に一回以上取締役会に報告しております。また、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注)2参照）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	264,600	264,600	—
(2) 受取手形及び売掛金	85,292		
貸倒引当金(※1)	△414		
(3) 電子記録債権	84,877	84,877	—
(4) 有価証券及び投資有価証券	5,409	5,409	—
その他有価証券	134,747	134,747	—
(5) 未収還付法人税等	205	205	—
資産計	489,841	489,841	—
(1) 支払手形及び買掛金	13,788	13,788	—
(2) 電子記録債務	4,903	4,903	—
(3) 未払金	25,936	25,936	—
(4) 未払法人税等	10,423	10,423	—
負債計	55,051	55,051	—
デリバティブ取引(※2)	68	68	—

(※1)受取手形及び売掛金に対する貸倒引当金を控除しております。

(※2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

(注)

1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権、(5) 未収還付法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、主として取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	301
投資事業有限責任組合契約に基づく権利	107
非連結子会社及び関連会社の株式	680

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	264,600	—	—	—
受取手形及び売掛金	85,292	—	—	—
電子記録債権	5,409	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				—
その他有価証券のうち満期があるもの（国債・地方債等）	156	10	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの（社債）	15,894	20,326	1,965	—
その他有価証券のうち満期があるもの（その他）	25,285	—	—	—
未収還付法人税等	205	—	—	—
合計	396,844	20,337	1,965	—

1 株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	7,104 円 04 銭
1株当たり当期純利益	352 円 14 銭

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

〔 平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで 〕

(単位：百万円)

	株主資本										
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計		
					研究開発 積立金	海外投資等 損失準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	86,969	97,253	97,253	2,464	1,500	6	243,500	33,060	280,532	△ 47,777	416,978
当期変動額											
海外投資等損失準備金 の取崩						△ 4		4	-		-
剰余金の配当								△ 21,154	△ 21,154		△ 21,154
当期純利益								26,784	26,784		26,784
自己株式の取得										△ 10	△ 10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											
当期変動額合計	-	-	-	-	-	△ 4	-	5,633	5,629	△ 10	5,618
当期末残高	86,969	97,253	97,253	2,464	1,500	2	243,500	38,694	286,161	△ 47,788	422,596

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	25,300	25,300	442,278
当期変動額			
海外投資等損失準備金 の取崩			-
剰余金の配当			△ 21,154
当期純利益			26,784
自己株式の取得			△ 10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	8,444	8,444	8,444
当期変動額合計	8,444	8,444	14,062
当期末残高	33,744	33,744	456,341

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式は移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものは決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものは主として移動平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、仕掛品及び原材料は移動平均法による原価法、貯蔵品は最終仕入原価法によっております（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降取得した建物（建物附属設備を除く）につきましては、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、建物が 3～50 年、機械及び装置が 5～8 年であります。

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（主に 3～5 年）に基づいております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権につきましては貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権につきましては個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づいて計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10 年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10 年）による定額法により按分した額を、費用処理しております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は為替予約の振当処理をしたものを除き、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

為替予約の振当処理を行っております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段とヘッジ対象は次のとおりであります。

（ヘッジ手段）	（ヘッジ対象）
為替予約取引	外貨建金銭債権

③ヘッジ方針

当社は業務を遂行するために行う取引のうち為替リスクに晒されているものについて、これらのリスクをヘッジする手段としてのみデリバティブ取引を行っております。

④ヘッジ有効性評価の方法

該当するデリバティブ取引とヘッジ対象について、ヘッジ取引の条件等を都度評価し、判断することによって有効性の評価を行っております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(4) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

102,968 百万円

2. 有形固定資産の圧縮記帳累計額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳累計額は、火災等による保険金入金によるもの 163 百万円、国庫補助金等の受入によるもの等 390 百万円であります。

なお、取得価額から控除している有形固定資産の内訳は、次のとおりであります。

建物	180 百万円
工具、器具及び備品	7
土地	365

3. 保証債務

以下の関係会社の債務に対し債務保証を行っております。

ローム浜松株式会社	63 百万円
ローム滋賀株式会社	18
カイオクス・インク	543
サイクリスタル・ゲー・エム・ベーハー	293

4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

関係会社に対する短期金銭債権	65,834 百万円
関係会社に対する長期金銭債権	38,750
関係会社に対する短期金銭債務	44,284

損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高

営業取引高	売上高	236,695 百万円
	仕入高及び外注加工費	230,988
	その他の営業費用	7,780
営業取引以外の取引高	営業外収益	10,863
	営業外費用	1,853
	資産譲渡高	19,199
	資産購入高	977

2. 減損損失

当事業年度（平成 30 年 3 月期）において、当社は次の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用 途	場 所	種 類	金 額（百万円）
遊 休 資 産	京 都 府	機械装置及び運搬具	163
		工具、器具及び備品	4
合 計			167

当社は、減損損失を把握するにあたり、事業用資産については、継続的に収支の管理を行っている管理会計上の事業区分に基づきグルーピングを行い、遊休資産については、個々の物件ごとにグルーピングを行っております。

上記資産グループについては、現時点において今後の使用見込みが乏しいと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、市場価値を勘案した合理的な見積りにより算定しております。

3. 関係会社株式評価損

当社の連結子会社であるロム・パワーベーション・リミテッド株式に対する評価損であります。

株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末の自己株式の種類及び総数

普 通 株 式 5,425,837 株

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

有 価 証 券	27,024 百万円
た な 卸 資 産	1,872
減 価 償 却 費	901
未 払 事 業 税	633
未 払 費 用	1,761
退 職 給 付 引 当 金	361
貸 倒 引 当 金	3,284
減 損 損 失	1,416
そ の 他	397
小 計	37,653
評 価 性 引 当 額	△ 28,263
合 計	9,389

繰延税金負債

前 払 年 金 費 用	△ 655
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 13,834
そ の 他	△ 39
合 計	△ 14,529

繰延税金負債の純額

△ 5,139

関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	ローム滋賀(株)	100%	当社の 加工委託先	資金の貸付 ※1	6,500	長期貸付金 ※6	14,000
	ラビ°セミコンダクタ(株)	100%	製品の 仕入先	製品の 仕入等 ※2	47,029	未収入金 買掛金 未払金	319 4,128 50
	ローム・エレクトロニクス・ フィリピンズ・インク	100%	当社の 加工委託先	製品の 加工委託等 ※3 技術指導料 の受取 ※5	34,100 2,810	未収入金 買掛金 未払金	7,226 11,525 98
	ローム・インテグレイテッド°・ システムズ°・タイランド°・カンパニー°・ リミテッド°	100%	当社の 加工委託先	製品の 加工委託等 ※3 技術指導料 の受取 ※5	33,362 2,960	未収入金 買掛金 未払金	5,030 8,968 40
	ローム・セミコンダクタ・チャイナ°・ カンパニー°リミテッド°	100%	当社の 加工委託先	資金の貸付 ※1	-	短期貸付金 長期貸付金	1,200 6,550
	カイオニクス・インク	100%	製品の 仕入先	資金の貸付 ※1	392	長期貸付金 ※7	6,002
	サイクリスタル・ゲームエムベダー	100%	原材料の 仕入先	資金の貸付 ※1	7,557	長期貸付金	8,875
	ローム・セミコンダクタ・ホンコン°・ カンパニー°リミテッド°	100%	当社の 販売先	製品の販売 ※4	68,692	売掛金	10,842
	ローム・セミコンダクタ・タイワン°・ カンパニー°リミテッド°	100%	当社の 販売先	製品の販売 ※4	31,560	売掛金	6,669

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)※ 議決権等の被所有割合は 0%であります。

※1. 資金の貸付については、市場金利を勘案した経済合理性のある利率を適用しております。

※2. 製品の仕入については、製品の市場価格を勘案して決定した価格を適用しております。

※3. 製品の加工委託については、製品の市場価格と子会社の加工費用を勘案して決定した価格を適用しております。

※4. 製品の販売については、一般の取引条件に準拠して決定しております。

※5. 技術指導料については、各社の売上額を基礎とした一定の基準に基づき決定しております。

※6. ローム滋賀(株)への長期貸付金に対し、5,719 百万円の貸倒引当金を計上しております。なお、当事業年度(平成 30 年 3 月期)において、貸倒引当金を 2,154 百万円繰入れております。

※7. カイオニクス・インクへの長期貸付金に対し、4,186 百万円の貸倒引当金を計上しております。なお、当事業年度(平成 30 年 3 月期)において、貸倒引当金を 76 百万円繰入れております。

1 株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 4,314 円 29 銭

1株当たり当期純利益 253 円 21 銭